

## ひとはく周辺にみられる伝統民家～撰丹型民家～について - 里それぞれの住まいと風景の伝承を考える -

山崎敏昭

(ひとはく地域研究員・兵庫県立大学大学院環境人間学研究科共生博物部門OB)

### 1. 兵庫の茅葺民家ベルト地域

兵庫県には、「千年家」と呼ばれ重要文化財に指定されている古民家が2棟現存している。そのうちの1棟神戸市北区山田町の箱木千年家とその周辺は、近世初めの古い民家が残されている県下でも稀有な地域である。この箱木千年家のある地域に連なる神戸市西区から北区、三木市、三田市、宝塚市北部、川西市北部、猪名川町、篠山市、丹波市にかけての地域は、県下でも特に多くの茅葺民家が集中している「茅葺民家ベルト地域」である。神戸市北区・西区では1200棟近くあり、三田市域でも約550棟が今もなお現役の住居としてあり、隣接の三木市やほかの市や町も含めると全体では数千棟の規模になると思われる(この数には鋼板覆い建物も含む)。

### 2. ひとはく周辺の茅葺屋根

ひとはく周辺の茅葺民家の状況はどうであろうか。三田市を含む旧撰津国域や旧丹波国域に分布する独特の型式である、妻入り型式で内部が縦割り片土間の構造である、「撰丹型民家」となっている。



平入り形式の民家と妻入り形式(右端)の民家(三田市役所『三田の茅葺民家』2009より)

### 3. すまいと風景の伝承にむけて

里のくらしを伝える茅葺民家は、生活様式が変化し世代交代が進む現在、急速に失われつつある。住居という生活に密着したものだけに、「古いから残せ」、「いいものだから残せ」という掛け声だけでは、茅葺民家は残せないものであると考える。

それには全国的にも貴重な、兵庫県東南部に今も息づく茅葺民家ベルト地域がどのように形成されたのか、また現状を捉える必要がある。今も住み続けている理由に、何か将来への継承のヒントがあるのではないかと考える。



「民家の缶詰・・・鋼板を外してみれば・・・」  
(作画：山崎)

# ひとはく周辺にみられる伝統的民家—摂丹型民家—について

—里それぞれの住まいと風景の伝承を考える—

山崎 敏昭 ひとはく地域研究員

大学院環境人間学研究科 共生博物部門（三田キャンパス）OB

## 1. はじめに

県立大学三田キャンパス周辺には、兵庫県と大坂府、京都府にまたがる旧摂津国と丹波国の区域にのみ分布する、摂丹型民家と呼ばれる特徴的な伝統的農家の型式が認められる。

本研究では、摂丹型民家の調査（三田市域における分布・現況・変遷）を軸に、民家の型式が何を表現しているのかを考え、それらを踏まえた文化的景観と環境資産としての継承方法を探る。



図1 妻入り民家（摂丹型民家）と平入り民家（非摂丹型民家）（※文献）

## 2. 伝統的民家のなかの摂丹型民家

摂丹型民家の特色 縦割型の妻入片土間式の民家型式。

「広縁と接客空間を重視する前座敷型の内部構成があり、破風を前面にした妻入形式の系譜は、中世の国人層の破風をもつ館を範とした格式を重視したもの」

（永井規男 1977 「摂丹型民家の形成について」）



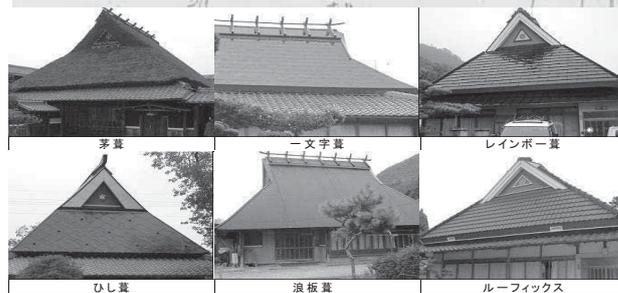
図2 標榜的な摂丹型民家の間取りと正面（妻側）の破風（※文献）

## 3. 民家形式の特質を探る・建築史的研究

兵庫県と大坂府、京都府にまたがる旧摂津国と丹波国の区域にのみ分布する特徴をもつ。

「ひとはく」のある兵庫県三田市域は、旧摂津国の西北部に位置する。北は旧丹波国に、西は旧播磨国に接する。

市域北部及び中央部の伝統的農家の型式は、ほぼ摂丹型民家で占められるが、市域西部では、播磨系の非摂丹型民家との混在が進む。



伝統的農家の現在形（※文献）

## 4. まとめ：未来につなぐ

摂丹型民家の建築類型学的分析 近世初頭から継承された摂丹型民家型式の現在形について、生活史や社会学の視点から検討を加える。

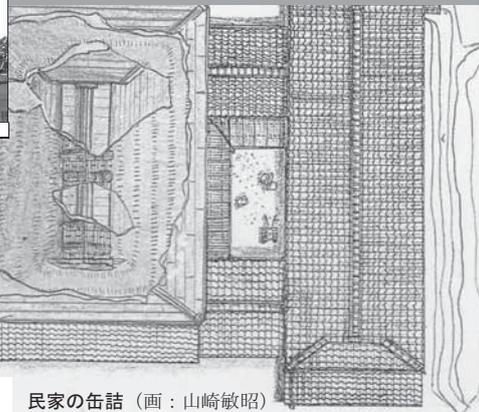
—景観文化を継承する仕組みづくり・民家単体の継承と農村景観の継承—どのようにして継承されてきたのか。

継承のメカニズムとは

農家の変遷（摂丹型民家類型内の地域型）

建築類型としての継承されてきた形態（かたち）の抽出 地域性豊かな農村景観の環境資産としての継承

残されてきた文法・継承されてきた形を現代に取り入れる



図・表：山崎作成の他は、※印 三田市『三田市の茅葺民家』2009より引用

民家の缶詰（画：山崎敏昭）